

グループワークを取り入れた中上級の作文指導

——メディア教材を利用して——

武井 啓子

1. はじめに

本稿はタマサート大学において2008年11月から2009年2月に行った日本語専攻4年次後期(中上級者)開講科目である選択必修科目「アカデミック・ライティング」における実践報告である。筆者はこの授業を2年担当し、1年目に気づいた2点について、2年目に改善を試みた。第1に学習者が記述する文中において引用と自分の意見の区別が曖昧である点、第2に社会問題などのテーマを与えると類似した意見文を書き、個性が現れない点である。1点目に関しては引用文と意見文を書き分ける練習を増やしたことで概ね改善されたため、本稿では軽く触れるのみとし、主に2点目について報告する。2点目に関しては学習者の興味を探ってから、テーマを設定した。その上で、グループ・ワークの形態でピア・レスポンス活動を取り入れ、学習者間で推敲したり、意見を深化させたりするための時間をとり、コース前半の課題レポート記述へと導いた。さらにコース後半では、学習者が就職先や進学先で今後、日本語を使って何らかのデータをまとめ、それに自分の意見を加えて発信することを想定し、読み手(聞き手)の存在を意識化し、伝えることを目標とする活動を盛り込んでみた。映像資料の内容をまとめ、プレゼンテーションするための資料を作成するという課題である。コースの終了時に学習者からコメントを得、分析した結果、グループ・ワークや授業の運営に関する様々なものが見えてきた。それらを真摯に受け止め、考察することで今後の授業運営に役立てていきたい。

2. 先行研究とコース設定

石田(2007)によると「日本語学習者の論文には他人の意見と書き手の主張の区別がつかないものが多いが、それは間接話法を『使える』段階にまで引き上げておけば、かなり防げる問題である(P.99)」。

そこで、コースの前半は「盗作」の概念を確認し、引用と意見を明確化することと、出典を明らかにした引用表現の練習に時間を割いた。その後、データを表やグラフにする練習を経て、情報を元に導き出した自分の意見を盛り込んだ課題レポートの記述を課した。

また、テーマによって似た意見ばかりになる点については、学生が興味を持って取り組めるような課題設定を試みた。そのため、オリエンテーション時にアンケートを取り(資料1)、学生の興味の所在を探り、テーマの細分化を図った。次に、コースの後半に関しては前述の石田(2007)と、野田(2009)を参照した。石田(2007)は「視聴覚教材を利用した文章表現の練習も考えられる。一連の写真や絵を見せて、文章を書かせるとか、ある主題についてスライドやVTRを見せて動機付

けすることもできる(p.102)」という提案をしている。また、野田(2009)は日本語リテラシーの種類のひとつとして情報を取捨選択する力を挙げている(p.27-28)。そこで後半は、映像資料の情報をレジュメとパワーポイントのファイル(以下、PPT)にまとめ、伝えるという課題を設定し、雑多な情報の中から必要な情報をまとめる力の育成を図った。さらにコース全体を通して「わかりやすく伝える」という目標を徹底するため、身近な読み手(聞き手)=学習者同士がいることを利用し、ピア・レスポンス活動(以下、PR:池田・舘岡(2007)他)を行った。

さて、PRが中級作文推敲の過程で有効であることは原田(2006)等、様々に研究が進められている。また、岡崎(1990)は「コミュニケーション・アプローチにあつては、言語学習とは伝達することを学ぶことであり、母国語の使用が適切である場合は配慮の下に認める、学習者がその必要を認め、それで得るものがあるなら翻訳を行ってもいい(p.25)」、石橋(2003)は中国人学習者を例に「中級では課題の認知負担の大きい抽象的な作文は、日本語(第2言語:以下、L2)で書く前に中国語(第1言語:以下、L1)を使用し、翻訳作文を書かせることが有効である(p.11)」と指摘している。そこで、筆者は意見の深化を重視してタイ語使用を認め、PR中に日本語(L2)とタイ語(L1)の切り替えが生じて問題とはしなかった。

3. コース運営の実際

3.1 対象者とクラスの概要

対象者は2008年度の「アカデミック・ライティング」受講者20名である。1~4年までタイで勉強した4年生8名、4年次に日本へ留学して戻ってきた5年生12名から成る20名で、日本語能力試験は1級~3級と言語能力に差がある。全て2年次、3年次に必修科目の作文科目を履修済みで、身近な話題、定義、引用、伝聞、意見文等の作文を書いたことがある。1コマ90分のクラスを週2回15週45時間のコースで、次に挙げる1)~5)を到達目標とした。

- 1) レポートや論文の形式について学び、事実や引用と自分の意見を区別して書けるようになる。
 - 2) 日本の会社で扱うビジネス文書、報告書等の形式について学ぶ。
 - 3) 映像資料やグラフ・表からデータを収集、分析して資料としてまとめられるようになる。
 - 4) 自分で調査、収集したデータを分析し、グラフ・表を作成してレポート・報告書にまとめられるようになる。
 - 5) 3)、4)をもとに口頭発表する。“「資料・レポートを読む人」=「発表を聞く人」”にとって理解しやすい資料を作成できるようになることをこの授業の最終的な目標とする。
- 2)に関しては、一部の学生から要望があったが、別の授業で扱われていることもあり、スケジュールの都合上、割愛した。筆記試験は中間試験のみ行い、主に引用、定義の表現の確認と表、グラフの作成を行った。なお、スケジュールは資料2として本稿の最後に提示した。

3.2 前半の課題：レポート①

コース前半の課題は書式に則ったレポートの記述とし、引用、定義の方法、出典の書き方、グラフや表の作り方と書式等についてクラス全体で練習した。その後、オリエンテーションのアンケートを元に、興味が近い人からなるグループを教師主導で決め、テーマ毎にグループワークでブレイン・ストーミングした(1 グループ 3～5 名)。グループ内で大きなものから小さなものへと各自のレポートのテーマを細分化し、アウトライン作りまでを行い、レポート(草稿)の記述は、個人作業とした(表 1)。レポートの各評価項目については練習してきたことを踏まえ、プロセス・シラバスを活用して筆者と学習者との話し合いの上、決定した。学習者はこの採点基準を知った上で PR を行った。その後、筆者は提出された草稿を添削し、採点基準に則って仮の点数をつけ、学習者に返却、学習者が再提出した推敲済みのレポートを評価した。途中のプロセスについては評価の対象外とした。詳しいスケジュールは資料 2 を参照されたい。

表 1 2008 年度 JP436 レポート①表題(抜粋)

グループ	レポートの表題
まんが	日本の漫画ー日本の漫画は全ていいものなのかー
	漫画ー日本におけるアニメーションは子供にとって良いものだろうかー
	漫画と映画ー漫画を実写映画化するのは良くないことなのかー
社会問題	ドメスティックバイオレンス(DV)ータイにおける DV 問題を防ぐにはー
	いじめ問題ーいじめの実態と対策ー
	日本のホームレスーホームレスは今後どのように変化していくのかー

3.3 後半の課題：レポート②

コース後半は、映像資料(DVD)を見て内容をまとめ、聞き手(読み手)に伝えるための資料を作成することを課題とした。その際、この課題は見て、聞いて、まとめ(書き)、話す(発表する)という今まで 4(5)年間学んできたことの総まとめであるという説明をした。評価は作成する資料、PPT(産出物)のみを対象とし、発表の技術は対象外とした。まず、発表例として、筆者が「NHK クローズアップ現代」の『今夜も眠れない～広がる女性の睡眠不安～』を元に作ったレジュメと PPT を使って、クラス内活動を行った。DVD は抜粋して流し、学習者が参加できる活動を盛り込んだ。これを例に、学習者は前半同様にグループワーク(4 名×5 グループ)を行い、発表時の配布用のレジュメと PPT を作成した。作成中は、自分のグループ内のみならず、他のテーマのグループとも PR を行い、内容を伝え合い、明確でない部分を改善していった。

表2 2008年度JP436レポート②表題

グループテーマ	映像資料
まんが	[NHK プロフェッショナル] 『愛と覚悟のヒットメーカー―漫画編集者・原作者 長崎尚志』
web	[NHK プロフェッショナル] 『ワンクリックで世界を驚かせ―ウェブデザイナー・中村勇吾』
ゲーム	[テレビ東京日経スペシャル「ガイアの夜明け」] 『広がるゲームの可能性～勉強…スポーツ…そして医療～』
食	[テレビ東京日経スペシャル「ガイアの夜明け」] 『食のチャイナショック～揺れるニッポンの食の現場～』
旅行	[テレビ東京日経スペシャル「ガイアの夜明け」] 『新しい旅をご提案～旅行離れで変わるツアー開発～』

3.4 データと分析

終了時のアンケート(資料3)に書かれたコメントをアンケート項目別に分析する。アンケート項目は6項目(2は2-a、2-b)、各項目を5点満点で評価し、自由にコメントする形をとった。

4. 結果の考察

4.1 グループワークを取り入れた作文

レポート①の草稿についてPRで得たコメントは、主に書式に関わるものが多く、内容に触れていても感想に終始していてレポートの内容や意見の深化に結びつくものは見られなかった。しかし、内容の深化を意図して行ったグループワークについてはレポート①、②共、学習者から賛否両方のコメントが得られた。肯定的な意見は5年生に多く、4年生は大部分が否定的で、中には教師に意見をもらうのが一番だという学習者もいた。この傾向はアンケートの結果にも表れ、5年生に比べて4年生は評価が低かった。横溝(2000)は、学習者の中には教師主導の授業を好む保守的な考え方を持つ者もあるので、プロセス・シラバスを実施するには教師のケアが必要であると述べている(p.71-72)。5年生は留学先で多様な学習法を体験してきたが、4年生は授業の運営に学習者が関わるような形式に慣れていないため、それを好まなかったようである。筆者による授業内活動に関する目的の説明不足も否めない。なお、グループワークを肯定的に評価した5年生ではあるが、PRに割いた時間が不足であったことや同じ課題を続けて書き膨らませていくことで、内容や理解がより深まるのではないかという意見もあった。振り返りの時間を取り、学習を通じて得たものが「内化」していけるような過程を作っていくことが必要だと考える。

4.2 授業全体についての学生のコメントより(抜粋)

- (1) 中間試験までに論理的な文を書いたり、レポートを作成するための練習は十分にでき

ましたか。(4年生平均点=3.63、5年生平均点=4.17)

- ① 十分練習できたと思う、たくさん勉強になりました、本当に役に立つことです。
- ② である体や書き言葉やグラフなどを使ったレポートはアカデミック・ライティングとして一番いい練習だと思う、である体の文や参考文献等の練習が役に立つ。
- ③ 全ての練習をもっとしたかった。各練習は別々だったので、本レポートの形にして復習してほしかったです。例えば、「出典はここに入れること」などです。

(2) グループ・ワークで同じテーマについて考えてからレポートを書いた点について

(2-a) アウトラインを考える時にグループで相談したことは、一人で考えるよりもよかったと思いますか。(4年生平均点=3.38、5年生平均点=4.25)

a) 肯定的な意見

- ① 皆でやったら、様々な意見が出てきたし、チームワークの仕方が学びました、内容が深くなった、グループですると色々な意見、自分がそれまで思いつかないこともどんどんわいて来る、助かった等。同様のコメントが5年生11名より得られた。

b) 否定的な意見

- ① 他の人とテーマや内容について相談することはいい方法だと考えた。だが、私は先生と相談したほうがもっと役に立つと思う。グループで相談することはすばらしいアイデアですが、1回ぐらいだけでかんぺきです。
- ② 様々な idea は出てきましたが、時に自分のしたいスタイルをしなくなってしまうが、グループワークですから、みな意見は大切だと思います。
- ③ グループで相談すると難しくなるとはありますが、協力してくれなかったり、けんかになってしまったりすることもあります。
- ④ テーマは自分の好きなものですが、グループの人と親しくないの、一人ぼっちになった。グループをくむときに、テーマではなく、ほかの方法があればいいと思う。

(2-b) レポート(下書き)を回覧し、他の人にコメントを書いてもらった点はよかったでしょうか。(4年生平均点=3.88、5年生平均点=4.08)

a) 肯定的な意見

- ① 書き直す時に役に立つ、いい点と直すべき点を書いてもらってよかった等。
- ② 全員のコメントを読むのが少し大変なのかもしれないが、訂正すればいいところが皆の意見・コメントで分かってきます。

b) 否定的な意見

- ① コメントは内容に対する感想で、あまりレポートをよくさせるものがない。
- ② 私はゲームについて書いて、自分の興味なので、分からないところが少ないですが、他の人が分からない部分は多いと思います。どこが分からなかったのかが知りたい。

- ③ 他の人に見てもらおうのは良かったが、そんなに見る時間をくれないから、深く詳しい意見がありません。同様のコメント5名。

- (3) DVD 発表について聞きます。映像資料をまとめる練習はアカデミック・ライティングの授業としてふさわしかったでしょうか。(4 年生平均点=3.50、5 年生平均点=3.92)

a) 肯定的な意見

- ① ふさわしいと思います。この授業はライティングだけでなく、映像を見て、聴解力も伸ばします。映像の内容を分ったら、映像の内容を自分でまとめられます
- ② 書くことには、ただ長く書けることだけでなく、重要な点を取って書けるのもアカデミック・ライティングの意味の一つだと言えます。
- ③ ふさわしかったです。DVD を見て、どんなことをまとめるかを考えて、まとめ方を練習できました。

b) 否定的な意見

- ① ちょっと難しすぎだと思います。
- ② 映像資料をまとめる練習はふさわしかったと思いますが、仲よくないメンバーと一緒に作業したのは大変でした。
- ③ DVD の内容をまとめ、そのまま発表するのは書き練習ではないと思う。だが、その内容に対して自分で調べ、レポートを書いてみたほうがいいかなと思っている。
- ④ 準備する時間が長かった。ほかのものも勉強したい。
- (4) 自分たちや他のグループの人たちが取り上げたテーマは、この授業にふさわしかったですか。(4 年生平均点=4.25、5 年生平均点=4.42)

a) 肯定的な意見

- ① テーマはおもしろくて、ゲームやまんがや旅行など様々な分野の知識が得ました。
- ② ふさわしいです。まじめなテーマとおもしろいテーマをこんざいして、聞き手と発表者がレポートを書きたくなると思います。
- ③ テーマはそれぞれの興味に合っているもので、「やる気」の種になります。

b) 否定的な意見

- ① ゲームやまんがに興味をもっていないので、みんなが共通点をもっているテーマにしたほうがいい。
- ② テーマは自分が興味を持っていることを自由に選ばせた方がいいと思う。
- (5) 4 年生(5 年生)後期の「作文」の授業として、この授業はどうでしたか。その他、この授業に対する意見や希望があれば自由に書いてください。(4 年生平均点=4.25、5 年生平均点=4.08)

a) 肯定的な意見

- ① 私はレポートを書くための技術を教えていただくことは非常に役にたつと考える。また自分のレポートを書けたのは一番よかったと思った。
- ② 難しかった。でも、難しい言葉を使って書く練習ができて、今まで勉強してきたことが生かされた。
- ③ 最初は theories を勉強してちょっと難しくて疲れてしまう時もありますが、中間試験の後、DVD 発表は面白かったです。レポートは難しかったです。

b) 提言など

- ① 感想が合わないで、なれていない友達と一緒にグループになって仕事を完成したことは自分の中に成長したと思う。
- ② 一学期で一つのレポートを書いた方が良いと思う。自分で好きなテーマを決め、それからそのテーマについてのことをくわしく調べた方が良いと思う。調べ中には色々な意見や内容に関する面白いことをたくさん出てくるかもしれないからです。
- ③ レポートは一つだけでも十分だと思いますが、自分が書いたレポートを先生にチェックしてもらったり、書き直したりする回数はもっと増やしたほうがよかったなと思います。初めて書くということで、わからないことや文法の間違ったところがあるため、レポートを書く練習がもっと必要だと思います。

5. 総合的考察と今後の課題

当初考えていた問題は2点あった。第1に引用と自分の意見の区別が曖昧な点、第2にテーマによっては類似した意見文を書き、個性が現れない点である。1点目に関しては練習を重ねたこととPRによる気づきを経て概ね改善された。2点目については、同じテーマに興味を持っている人のグループ内でテーマを細分化し、グループ内だけでなく、グループ外のテーマに興味を持たない人にも内容を説明するという過程を経て、意見の深化があった。しかし、メディア教材の利用に関しては、内容をまとめることに重点を置いてしまった。その中でも、グループで内容と意見をまとめていく過程においては学習者間で意見の対立が生じた。この対立は学習者に生じた意見の深化といえる。つまり、発表後に個人のレポートを再度書けば、深化した意見が反映されたものとなったのではないかと思われるのだが、実証の機会がないのが残念である。

最後に、グループワークでは、自分が成長したという学習者ばかりでなく、ストレスや孤独を感じた学習者がいたことに筆者の配慮が及ばなかったことは反省すべき点である。渋谷(2008)は、ピア・ラーニングの一つである「体験学習」を紹介する中で「自分の主張に固執、意見の違う人を攻撃したり、他者の意見を無視したりする学習者、逆に自分を抑え、ストレスをため込む学習者の存在」を指摘し、「一方的に自分の言い分が通じればいいのではなく、その場の状況や相手に

配慮した上で相手とコミュニケーションをとるための伝え方を学ぶことが重要である(p.125)」と述べている。このことを真摯に受け止め、全ての構成員が互いを尊重し合い、自由に意見を交わせるような社会を教師と学習者で教室内に創り出す方法を考えていきたい。つまり、筆者の今後の課題は、学習者における意見の伝え方とコミュニケーションの関係や、活動を行う中で生まれる学習者の意見の深化を反映させていけるような、連続性を持たせたスケジューリングを授業の運営に組み込むことである。また4年生の一部には活動の目的が理解されていなかったことから、活動や課題の目的を繰り返し説明する必要も実感した。以上のことから、教師の役割について明確な視点を持って授業の設計と運営を考えていかなければならないと考える。

野田(2009)は「相手とのコミュニケーションを強く意識し、聞き手や読み手のことをよく考えて、どんな内容をどのように話したり書いたりすればよいかを考えて実行する能力を養うことが、これからのリテラシー教育では重要になる(p.33)」と言っている。今後も、自分が関わる学習者がその時々と言語レベルで最適な伝え方を選んでコミュニケーションできるように寄り添い、通じ合う喜びに共感し、次なる段階へと進んでいくのを助ける日本語教育を実践していきたい。最後にこの授業の設計と運営にあたり、助言をいただいたタマサート大学教養学部の Weerawan Washiradilok 先生に心から感謝する。

参考文献

- 池田玲子・館岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門ー創造的な学びのデザインのためにー』、ひつじ書房
- 石田敏子(2007)『入門 書き方の指導法』、アルク
- 石橋玲子(2003)「第2言語の作文産出における第1言語使用効果ートピックの認知負担の観点からー」『茨城大学留学生センター紀要』第1号、pp.3-12
- 宇佐美洋(2007)「学習者作文に対する教師コメントの分析ーより効果的なコメントを書くための視点ー」『日本語教育』135号、pp.60-69
- 岡崎敏雄、岡崎眸(2007)『日本語教育におけるコミュニカティブ・アプローチ』、凡人社
- 学習技術研究会(2006)『知へのステップ改訂版』、くろしお出版
- 佐々木瑞枝、細井 和代、藤尾 喜代子(2006)『大学で学ぶための日本語ライティング』、The Japan Times
- 渋谷実希(2008)「他者との関係を意識した学習活動「体験学習」を取り入れた会話クラスの実践報告」『一橋大学留学生センター紀要』11号、pp.125-135
- 清水 明美、岩沢 正子、加藤 清、武田明子(2003)『Practical 日本語 文章表現編ー成功する型』、おうふう
- 野田尚史(2009)「話し方と書き方のリテラシー」『日本語学』28巻2号、明治書院、pp.24-33

原田三千代(2006)「中級学習者の作文推敲過程に与えるピア・レスポンスの影響－教師添削との比較－」『日本語教育』131号、pp.3-12

横溝紳一郎著 日本語教育学会編(2000)『日本語教師のためのアクション・リサーチ』、凡人社映像資料

[NHK クローズアップ現代]

『今夜も眠れない～広がる女性の睡眠不安～』(2007年10月16日)

[NHK プロフェッショナル 仕事の流儀]

『第82回 ワンクリックで世界を驚かせ－ウェブデザイナー・中村勇吾』(2008年4月1日)

『第67回 愛と覚悟のヒットメーカー－漫画編集者・原作者 長崎尚志』(2007年11月6日)

[テレビ東京日経スペシャル「ガイアの夜明け」]

『第293回 広がるゲームの可能性～勉強…スポーツ…そして医療～』(2007年12月11日)

『第306回 食のチャイナショック～揺れるニッポンの食の現場～』(2008年3月18日)

『第331回 新しい旅をご提案～旅行離れで変わるツアー開発～』(2008年9月16日)

資料1. オリエンテーションのアンケートで学習者の興味を探るために提示した項目
(3つ選び、それぞれについてどのようなことに興味があるのかを詳しく説明するよう指示)

地理、歴史、旅行	食糧不足・資源	少子化、高齢化
宗教、神、霊	音楽、絵画	ジェンダー
季節、行事、祭り	教育	年金、税金
ファッション	医療、健康	日本式経営
語学・言語、文化	農業・工業・科学技術	タイの～
車、道路	コンピュータ、ゲーム	日本の～
食品	環境問題、国際化	世界の～
まんが	政治・経済問題	その他(～の～)

資料2. 2008年度 JP436 授業スケジュール

回	Quiz & HW	授業内容
0		オリエンテーション、アンケート
1	文体の確認	文章の分類、適切な語の選び方
2		理解しやすい文、読点、接続詞
3 & 4	1～4	事実と意見①②
5 & 6		引用と意見①②

7 & 8	HW(引用)	レポートの書き方①②
9	5～8	テーマを絞る
10		データの整理：図表の示し方①(図、表、グラフの種類)
11	HW(図、グラフ)	データの整理：図表の示し方②(図、表、グラフを作る)
12 & 13	レポート①	レポート①グループ決め、アウトライン(グループ)
14	グループ・ワーク	レポート①について(相談会)
15 & 16		中間試験(筆記)のFB、課題レポート①下書き PR
17	レポート② グループ・ワーク	レポート②発表例：映像資料の情報をもとに作成した報告書、 テーマ→グループ決め、レポート①草稿提出(→教師添削)
18		グループ・ワーク (DVD) ①
19		グループ・ワーク (DVD) ②、レポート①草稿返却
20		レジュメ・PPT をまとめる作業、レポート②PR
21 & 22		レポート②レジュメ・PPT の提出(→教師添削)
23 & 24		レポート①推敲提出、レポート②レジュメ・PPT (FB) 再提出
25	レポート② 発表	グループ 1：ゲーム (ガイアの夜明け)
26		グループ 2：web (プロフェッショナル)
27		グループ 3：食品 (ガイアの夜明け)
28		グループ 4：まんが (プロフェッショナル)
29		グループ 5：旅行 (ガイアの夜明け)
30	レポート②FB	アンケート(授業へのコメント)

資料 3. 授業の最後にとったアンケート項目

(各項目は 5(満足)、4、3(ふつう)、2、1(不満)で評価、自由にコメント)

1. 中間試験までに論理的な文を書いたり、レポートを作成するための練習は十分にできましたか。
2. グループ・ワークで同じテーマについて考えてからレポートを書いた点について聞きます。
 - a. アウトラインを考える時にグループで相談したことは、一人で考えるよりもよかったと思いますか。
 - b. レポート(下書き)を回覧し、他の人にコメントを書いてもらった点はよかったでしょうか。
3. DVD 発表について聞きます。映像資料をまとめる練習は「アカデミック・ライティング」の授業としてふさわしかったでしょうか。
4. 自分たちや他のグループの人たちが取り上げたテーマは、この授業にふさわしかったですか。
5. 4年生(5年生)後期の「作文」の授業として、この授業はどうでしたか。その他、この授業に対する意見や希望があれば自由に書いてください。

▽ 非常勤講師業務 (JF 日本語講座)

○ 授業時間

2014年度 前期 2014年6月3日(火)～2014年9月13日(土):15週間

〃 後期 2014年11月4日(火)～2015年2月28日(土):15週間

1 コマ 90 分または 120 分 担当時間・曜日は応相談

火曜日～金曜日 18:15～20:15、18:45～20:15

土曜日 9:30～11:30、10:00～11:30、12:30～14:30、13:00～14:30、14:45～16:15

○ 業務

担当コースの立案、教材作成、試験作成および成績つけ、配布資料の保存等

※ 成績付けのための試験は少なくとも期末試験 1 回実施。中間試験・小テスト・宿題などは担当講師の裁量による。

○ 謝金

講義 時給 1,000 バーツ (1 コマ 90 分で 1,500 バーツ、120 分で 2,000 バーツ)

試験日は試験作成・監督・採点を含め 1 コマの謝金

会議は別計算 (時給 200 バーツ)

▽ JF 日本語講座について

○ 受講生について

全体で学生が約 3～4 割、社会人が 6～7 割。日系社員は全体の半数近く。平均年齢は 20 代後半。

日本語レベルは、上級が N1～N2、中級が N2～N3 程度。

○ クラスについて

現在、毎学期 18 コース前後を開講。

原則、クラス定員 20 名。定員の半数以下しか登録希望がないときはクラスを開講しない場合がある。